

よしだ

文化会館だより

NO.87

2005.4.1

第十八回笠岡市部落 解放文化祭を開催

笠岡市部落解放文化祭が「解放へのいとなみと人権意識の高まりを求めて」をテーマに3月4日から6日までの三日間にわたり、吉田文化会館（第一会場）と吉田小学校体育館（第二会場）で開催されました。

この文化祭は、文化会館及び教育集会所を拠点とした教育・文化活動を奨励するとともに、同和問題を中心とした市民啓発と人権文化の高揚に役立てることを目的に毎年開催されているものです。



それぞれの会場では

保育所、幼稚園、小・中学校、企業等からの学習成果の発表、各種講座の作品、人権のうた、人権啓発パネル・ポスター、福祉施設からの作品など多数の作品が展示され、多くの来館者が熱心に見学しました。

いろいろな催しも

3月5日には、吉田保育所マーチングバンドによる演奏や、ひよこの会会員による「お話のおくりもの」の催しがあり、子どもから大人まで、楽しくふれあいのひとときを過ごしました。

3月6日には、「人権を考えるつどい」が開催されました。男女共同参画啓発絵手紙入賞者の表彰に続いて、新吉中学校生徒による和太鼓の演奏があり、力強い太鼓の響きに、若者のたくましさを感じました。

次に、「心を伝えたい」という演題で、吉田小百合さん（大阪更池の語りべ）が、自らの生い立ちの中から差別とは何か、部落の誇りとは何かについて語られました。

吉田さんの、「人の痛みがわかる子に、人の思いがわかる子に、差別だけは許さん子に」という訴えに、胸を熱くした時間でした。

よしだ文化会館だより①



▲吉田小百合さん
（大阪更池の語りべ）

アンケートから

○手芸・木彫・児童作品などすべていいねいに心をこめて製作されており、見る者の心に伝わってくるものがありました。

○吉田さんのお話をお聞きして、心から感銘し、自分を振り返り反省しました。自分の生徒たち、自分子どもたち、周囲の人たちに、自分は本当に心からその人のことを大切に思い接してきたのだろうか。涙がとまりませんでした。自分も変わりたい、そう思いました。

○新吉中生徒の和太鼓、とてもすばらしかったです。鳥肌が立ちました。若者の力強さを感じました。

新吉中生徒、これからも頑張れ！吉田さんの気持ち（心）をしっかり受け止め、日々私自身も頑張りたいと思います。